－所蔵作品紹介－

戸村　浩　TOMURA Hiroshi

木の星　Jupiter

きのほし　じゅぴたー

作品データはこちら

戸村浩は中国天津に生まれた。1963年に桑沢デザイン研究所インダストリアルデザイン科を卒業し、パッケージ・デザイン事務所を経て柳工業デザイン研究会で柳宗理に師事した。1969年の個展（南画廊）を機に翌年研究会を退き、作家活動に入っている。

この作品は「あそびの木箱'87」展（1987、北海道立旭川美術館）のために制作された。色の異なるニヤトーを積層させた水平の縞模様をもつ球体であり、木星（英語でJupiterジュピター）というタイトルは実にふさわしい（ただしあの大赤斑はない）。また出品展の趣旨どおり箱にもなっていて、押すと抽斗が出てくる部分が５カ所あり、閉じれば球体に戻るのである。こうした素材の美しい生かし方、発想の機知などが評価され、同展で奨励賞を受賞した。

もっとも、球形を選んだのは作者にとってそれほど突飛な発想ではなかったかも知れない。「造形的な関心から数理的な形態と思考に興味をもった」彼は、球のもつある性質に「思いもかけない、数の秩序の不思議」を感じたという。それは球がさまざまな正多面体と内接外接の関係にあることだった。つまり球とはそれ自体完結した秩序をもつとともに、他の秩序ある形を包含し得る形なのだ。そこに、球という形が箱の機能を担うための正当で必然的な理由が成立する余地がある。だから戸村の造形に箱への反逆ではなく必然性を認めても誤りではないのだ。むしろ私たちが見逃してはいけないのは必然性の出発点にあるもの、つまり数学的思考に覚えた驚きと神秘を創造へ転換させる造形思考のしなやかさではないだろうか。

*引用は戸村浩『時空の積木』（日本評論社、1992）より。

「北海道立旭川美術館コレクション選集1982-1997」（1998年３月発行）より